

マカー文化リサーチセンター

理事長 メリディス・パーカー様

「寶順丸」贈呈メッセージ

親愛なるマカー族のみなさまこんにちは

1832年10月、米や陶器などを積み、14人の乗組員を乗せて日本の鳥羽から東京へ向かった寶順丸が暴風雨により遭難し、14か月の間太平洋を漂流し生き残った、10歳代から20歳代の3人の水夫（岩吉、久吉、音吉の三吉）がワシントン州西北部ケープ・アラバに漂着、アメリカ先住民マカー族の祖先の方々に救助されて食と寝床を与えていただき。この三人の漂着は、ジョン万次郎のアメリカ漂着よりも8年も前のことで、初めてアメリカの土を踏んだ日本人であります。

三吉は、以後フォート・バンクーバーへ、ロンドンへ、そしてマカオ、香港、シンガポール等へと世界を移動しながら、国際感覚を身につけ、和訳聖書を作成し、さらには、1854年の日英通商条約締結の際に、英国側通訳として活躍するなど、日本の開国や、日本と米国との近代国際外交の発展に寄与するなどしましたが、日本の鎖国政策で再び日本の土を踏むことができず、望郷の念にかられながら異国の地に骨を埋めたのです。

私たち日本ボーイスカウト兵庫連盟は、予期せぬ逆境にもめげず不屈の精神と忍耐力をもって国際人としても活躍した彼らの史実を、若き青少年に知らしめ伝承すべく、1989年兵庫県・ワシントン州姉妹提携25周年、ワシントン州建州100周年記念の時、日米スカウト国際交流事業の一環として「三吉史実顕彰記念石碑」をワシントン州南部にあるフォート・バンクーバー国立史跡公園へ建立しアメリカ市民へ贈呈したところです。

この度、日米市民のさらなる友好と草の根交流の発展を願って“三吉史実”の二つめのシンボルとして感謝と友情を満載した漂着当時の船「寶順丸」のレプリカを制作（兵庫県赤穂市在住の船大工の湊 隆司氏作）し、マカー文化リサーチセンターに贈呈いたしますとともに、末永くワシントン州の北と南における日米友好文化の架け橋となりますよう祈念申し上げます。

2006年6月14日

兵庫県知事

日本ボーイスカウト兵庫連盟

連盟長 井戸 敏三